開催日:令和5年7月5日 開催場所:いの町大森

令和3年度 建設業デジタル化促進モデル事業現場見学会(有限株式会社手箱建設)

<デジタル化促進モデル事業の実施内容>

導入機器:自動追尾型TS搭載ショベル(杭ナビショベル)

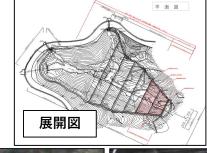
<工事概要>

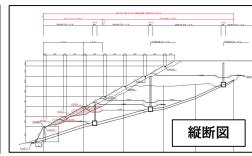
工事名:道改(特定)第06-05-01号 県道石鎚公園線道路改良工事

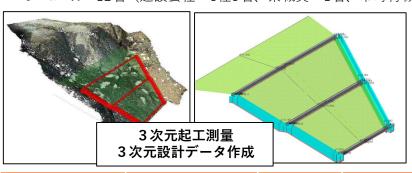
請負代金:13,662,,000円、工期:令和4年10月5日~令和5年5月31日

工事内容:施工延長L=100m 残土処理工V=1750m3、 種子散布工V=460m2、排水構造物工N=1式

<**参加者**>12名(建設会社:3社5名、県職員:1名、市町村職員:6名)











プロセス	使用機械等	従来	ICT	効果	評価	
3次元起工測量	レーザースキャナ				レーザースキャナを用いることにより図面作成等時間を短縮できた。	弊待り約
3次元設計データ	SiTECH 3D	2人・日	1人・日	-50%	データ作成には日数がかかったが、作成したデータ が現場での測量、管理に使用できるので、時間短縮 に繋がった。	で 問 中 バ
ICT施工	MGバックホウ (杭ナビ)	2人・日	1人・日	-50%	モニターによりバケット位置等を確認できるので、 オペレーターも重機を降りて確認することもなく、 作業の効率化が図れた。	が ICT な全ずりまナ自り になって でもなった。
3次元出来形管理	従来どおり	-	_	_	_	
合計		50人・日	31人・日	-38%	初めて取り組んだICT施工だったこともあり、機械やタブレット操作に戸惑い単純なミスもあったが、プロセスすべてにおいて工期の短縮が図れた。数字以上に現場での安全性向上や主任技術者の負担の軽	

施工者のコメント

終計は当工事からICT施工に取 組み、現在では累計6現場 でICTを活用しています。中山 間地域であり、工事形態が**小** 中規模のものが多く**GNSS** バックホウの使用が困難なた り、杭ナビショベルを導入し CT小規模土工での施工が主と なっております。生産性、安 ≧性の向上、コスト削減、い ずれにおいても**ICT**は優れてお それがすぐに実感できてい ます。今後はレーザースキャ ナを導入しプロセスすべてを 自社で行えるよう予定してお 、ICT技術を積極的に取り入 れていきます。

発注者の コメント

3次元設計データの作成と自動追尾型TS搭載ショベルのマシンガイダンス機能により、丁張無しで手際良く掘削できたことや、自動追尾型TSにより、効率良く測量できたことが、現場の省人化に繋がっている。今後、3次元設計データ作成に慣れていくことで更なる生産性向上が見込まれる。

減につながった。